

2016年12月期 決算説明会

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2017年3月2日

- I 2016年度 決算実績と
2017年度 業績予想**
- II 今後の成長戦略**

会社概要



商号	株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
設立	1977年11月2日
本社所在地	佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4
代表者	代表取締役会長兼社長 唐川文成
従業員数	142名（2016年12月31日現在）
事業内容	診断薬事業…病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売 OTC事業…OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
主要取引先	株式会社メディセオ、東邦薬品株式会社、アルフレッサ株式会社 株式会社バイタルネット、株式会社スズケン、富士フイルム株式会社 他
営業網	本社、東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、各地駐在
開発拠点	佐賀県鳥栖市 本社工場

※OTC（Over The Counter）： 医師の処方箋がなくても購入できる医薬品。
薬局、薬店、ドラッグストアなどでカウンター越しに販売することに由来した名称

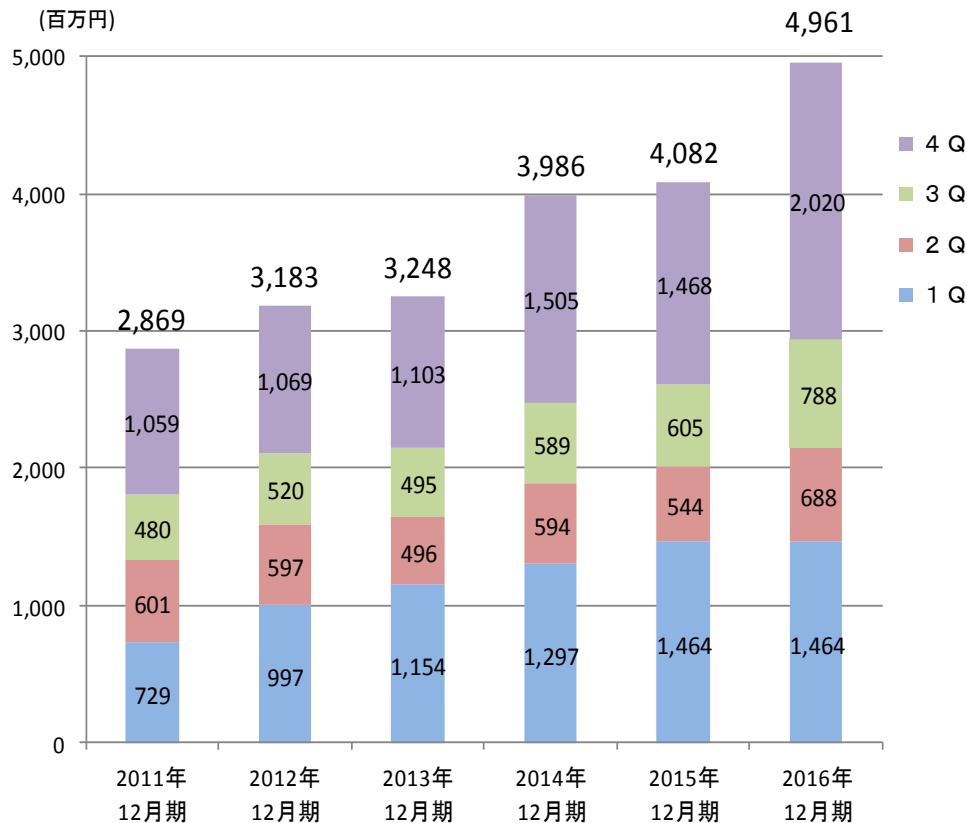
I 2016年度 決算実績と 2017年度 業績予想

2016年12月期 決算実績 業績の推移(売上高、経常利益・当期純利益)

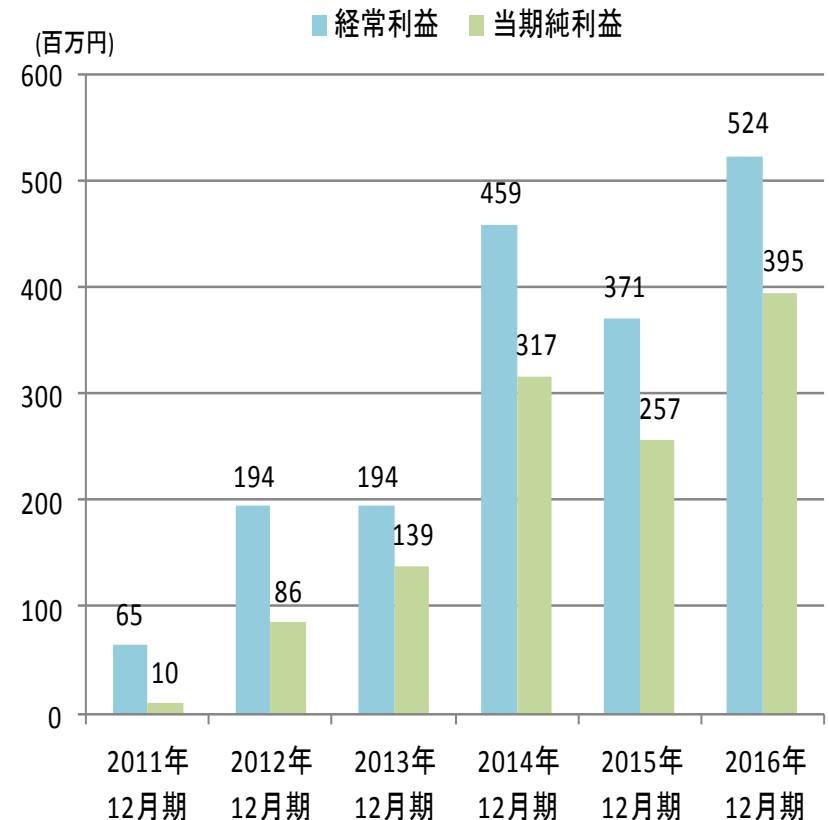


- 増収・増益基調継続（6期連続）
- 売上高及び利益は、第1・第4四半期（インフルエンザ流行期）に集中

売上高



経常利益・当期純利益



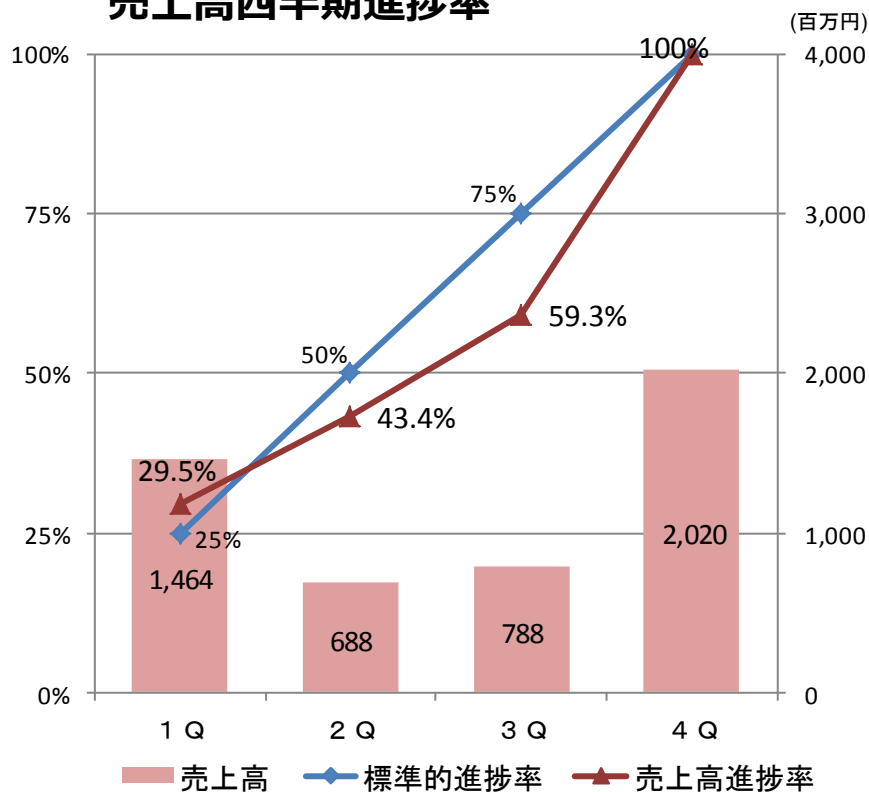
2016年12月期 決算実績

四半期進捗率の推移 (売上高・営業利益)

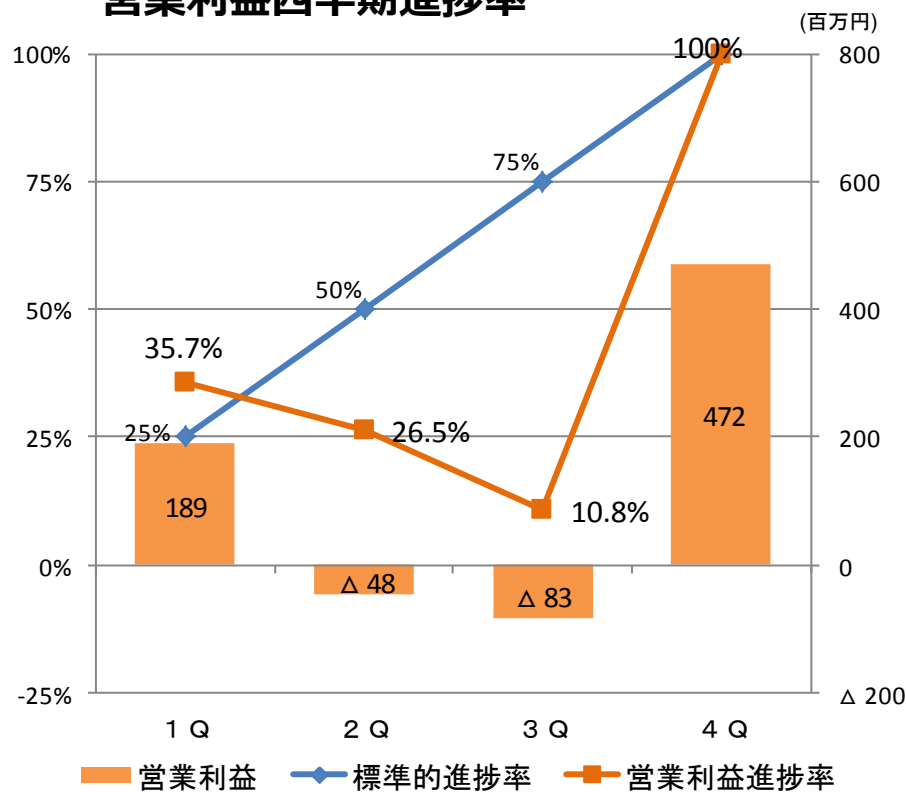


- 2016年12月期 四半期進捗率の推移 (通期実績を100%とした場合)
- 当社の特徴：『季節変動により、売上高が1Qと4Qに集中するため』
⇒ 売上高及び営業利益の四半期進捗率の推移は、
季節変動のない標準的進捗率から大きく乖離する傾向あり

売上高四半期進捗率



営業利益四半期進捗率



2016年12月期 決算実績 損益計算書 P/L (前期比、予想比)



- 売上高 4,961百万円 (前期比 21.5%増、予想比3.5%増)
- 経常利益 524百万円 (前期比 41.2%増、予想比7.7%増)

- ✓ 前期比：大幅な増収が、販売促進費、研究開発費など販管費の増加をカバーし、増収・増益
- ✓ 予想比：各四半期とも、おおむね計画どおりに推移
4 Qのインフルエンザ検査薬の伸長や新製品の貢献により、上振れ着地

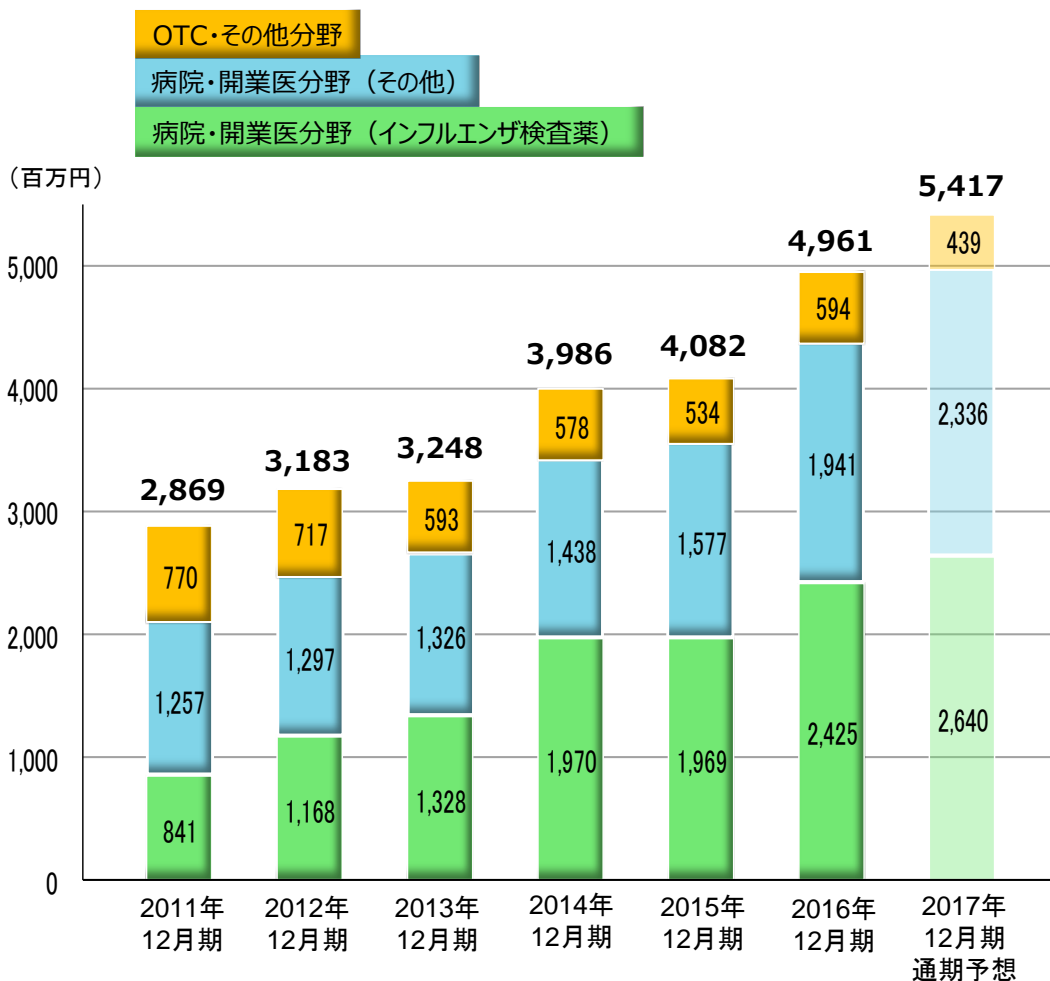
(百万円)

	2015年12月期		2016年12月期							
	実績		予想		実績		前期比		予想比	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	4,082	100.0	4,795	100.0	4,961	100.0	879	21.5	165	3.5
差引売上 総利益	2,660	65.2	3,132	65.3	3,190	64.3	529	19.9	58	1.9
販売費及び 一般管理費	2,272	55.7	2,641	55.1	2,661	53.6	388	17.1	19	0.8
営業利益	388	9.5	491	10.2	529	10.7	141	36.3	38	7.8
経常利益	371	9.1	487	10.2	524	10.6	153	41.2	37	7.7
当期純利益	257	6.3	352	7.3	395	8.0	137	53.4	43	12.2

2016年12月期 決算実績 市場分野別の売上高推移



市場分野別の売上高



2016年12月期実績

■ 病院・開業医分野 (4,367百万円 23.1%増)

◇インフルエンザ検査薬 (2,425百万円 23.1%増)
 ・イムリーダーの累計販売台数増加に伴い、試薬 (Auto Flu A,B)の出荷数も伸長し、大幅増収

◇ その他 (1,941百万円 23.1%増)

・その他感染症 P O C T 検査薬は、増収基調継続
 アデノウイルス、A群β溶連菌、ノロウイルス、
 ロタ/アデノウイルス検査薬など

・新製品の発売開始・売上好調
 肺炎球菌、RSV/ヒトメタニューモウイルス、
 特にマイコプラズマ検査薬

■ OTC・その他分野 (594百万円 11.1%増)

・自社ブランド及びプライベートブランドの妊娠検査薬及び
 排卵日検査薬は、価格競争に苦戦

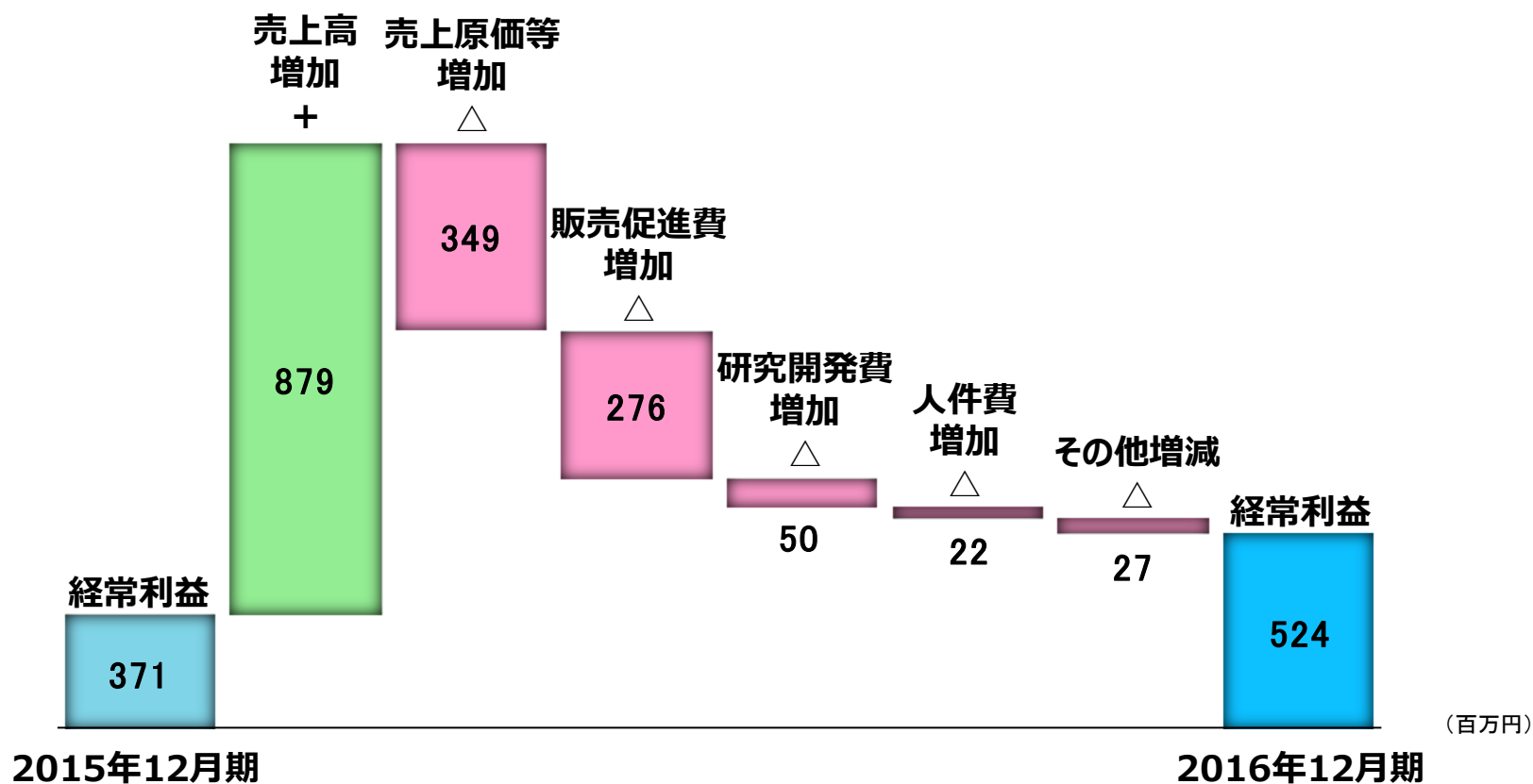
・排卵日検査薬のスイッチOTC (2016年11月)

・武田薬品工業株式会社向け製品(ハイテスターH及び
 ハイテスターN)の発売開始(2016年12月)

2016年12月期 決算実績 経常利益 増減要因



- 売上高879百万円の増加にともない、売上総利益が529百万円増加
- この大幅な増収が、販売促進費、研究開発費、人件費及びその他費用の増加を吸収し、2016年12月期の経常利益は、524百万円(153百万円の増益)



2016年12月期 決算実績 貸借対照表 B/S(資産)



(百万円)

	2015年 12月期	2016年 12月期	増減額	主な増減内容
流動資産	2,408	2,917	508	
現金及び預金	41	75	34	
受取手形及び売掛金	1,467	2,033	565	・2016年4Qの売上高増加による増加
たな卸資産	868	746	△121	・2016年4Qの売上高増加による減少
その他流動資産	32	61	29	
固定資産	1,081	1,124	43	
有形固定資産	884	923	39	
無形固定資産	5	5	0	
投資その他の資産	192	195	3	
資産合計	3,490	4,041	551	

2016年12月期 決算実績 貸借対照表 B/S(負債・純資産)



(百万円)

	2015年 12月期	2016年 12月期	増減額	主な増減内容
流動負債	1,052	1,329	276	
支払手形及び買掛金	389	341	△47	
短期借入金	349	459	110	
その他流動負債	314	528	214	・未払法人税等の増加75 ・未払費用の増加70
固定負債	848	816	△31	
長期借入金	265	184	△81	
その他固定負債	582	632	49	
負債合計	1,900	2,145	244	
株主資本	1,589	1,896	306	
資本金	464	464	—	
資本剰余金	274	274	—	
利益剰余金	850	1,157	307	・2015年12月期配当金△88 ・当期純利益395
純資産合計	1,589	1,896	306	
負債純資産合計	3,490	4,041	551	

2016年12月期 決算実績 キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	2015年 12月期	2016年 12月期	増減額	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	17	187	169	<ul style="list-style-type: none"> ・税引前当期純利益 (+524) ・売上債権の増加 (△565) ・たな卸資産の減少 (+121) ※2015年12月期は、インフルエンザ検査薬に係るたな卸資産の増加(約220)により、17にとどまる
投資活動による キャッシュ・フロー	△61	△86	△24	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得 (△86)
財務活動による キャッシュ・フロー	46	△66	△113	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の純増 (+110) ・配当金の支払 (△87) ・長期借入金の返済 (△81)
現金及び現金同等物 の増減額	2	34	31	
現金及び現金同等物 の期首残高	38	41	2	
現金及び現金同等物 の期末残高	41	75	34	

2017年12月期 通期業績予想(損益計算書 P/L)



➤ 2017年12月期も継続して、増収・増益を予想

- 売上高 5,417百万円 (前期比 9.2%増)
- 営業利益 657百万円 (前期比 24.1%増)
- 経常利益 656百万円 (前期比 25.2%増)
- 当期純利益 503百万円 (前期比 27.3%増)

(百万円)

	2016年12月期		2017年12月期			
	実績		通期予想			
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %
売上高	4,961	100.0	5,417	100.0	455	9.2
売上総利益	3,190	64.3	3,483	64.3	293	9.2
販売費及び一般管理費	2,661	53.6	2,826	52.2	165	6.2
営業利益	529	10.7	657	12.1	127	24.1
経常利益	524	10.6	656	12.1	132	25.2
当期純利益	395	8.0	503	9.3	108	27.3

2017年12月期 市場分野別 売上高予想



◆病院・開業医分野 — 前期比 14.0% 増 4,977百万円

- インフルエンザ検査薬は、機器の累計販売台数の堅調な伸びに伴い、さらなる試薬の売上拡大
- その他の感染症POCTのアデノウイルス、A群β溶連菌、ノロウイルス等は、増収基調維持、さらに2016年発売のマイコプラズマ及びRSV/ヒトメタニューモは、シェアの拡大を予想

◆OTC・その他分野 — 前期比 26.0% 減 439百万円

- 排卵日検査薬のスイッチOTC ⇒ 薬局・薬店・ドラッグストアにおいて販売解禁(2016年11月)
- 武田薬品工業株式会社向け製品(ハイテスター)の発売開始(2016年12月)されるも、その動向や自社既存製品への影響等を注視する必要がある、2017年は過渡的状況を想定し、減収を予想

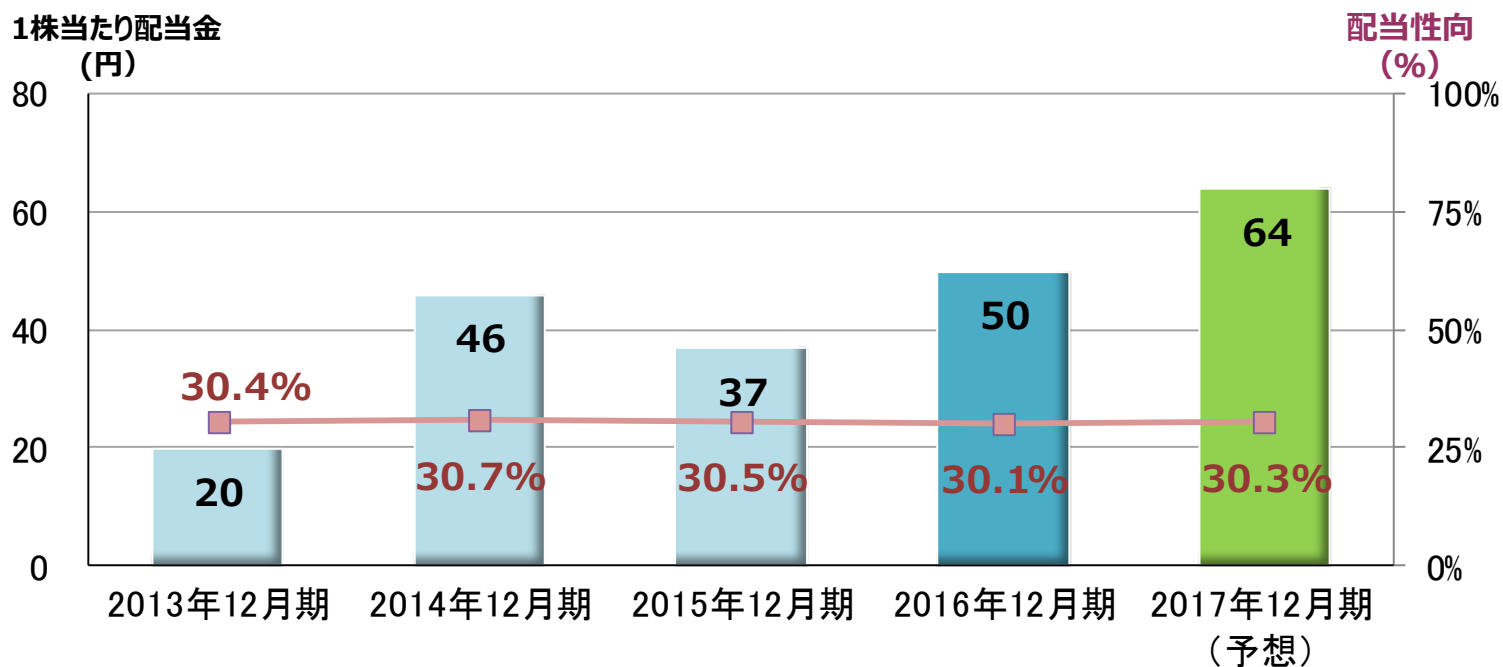
(百万円)

	2016年12月期		2017年12月期			
	実績		通期予想			
	金額	構成比%	金額	構成比%	増減額	増減率%
病院・開業医分野	4,367	88.0	4,977	91.9	610	14.0
(インフルエンザ検査薬)	2,425	48.9	2,640	48.7	215	8.9
(その他)	1,941	39.1	2,336	43.1	395	20.4
OTC・その他分野	594	12.0	439	8.1	△154	△ 26.0
合計	4,961	100.0	5,417	100.0	455	9.2

配当方針

『業績に応じた配当を行うことを基本としつつ、配当性向、企業体質の一層の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案して決定』

- この方針を踏まえ、配当性向30%を目標
- 2016年12月期の配当は、1株当たり50円（配当性向30.1%）
- 2017年12月期の配当予想は、1株当たり64円（配当性向30.3%）

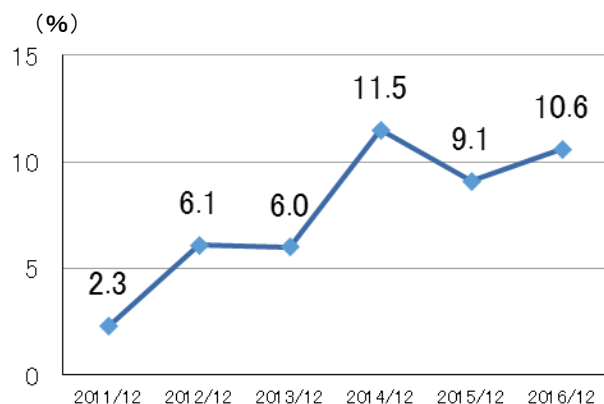


財務比率等の推移

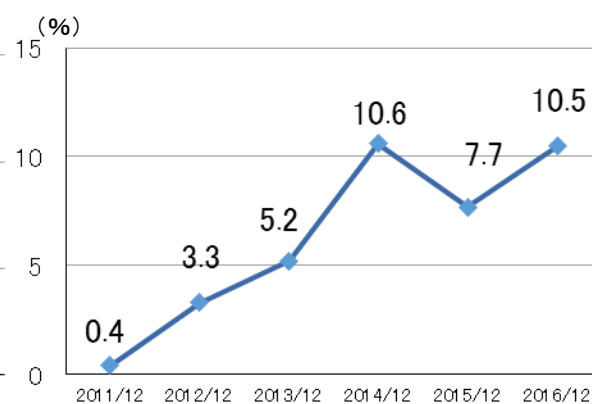


- 利益率は売上面、資産面からも増加基調

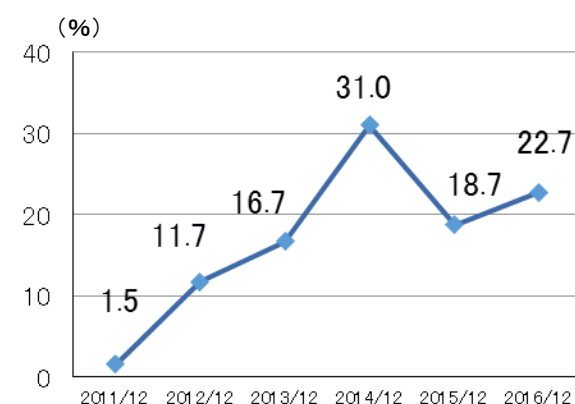
売上高経常利益率



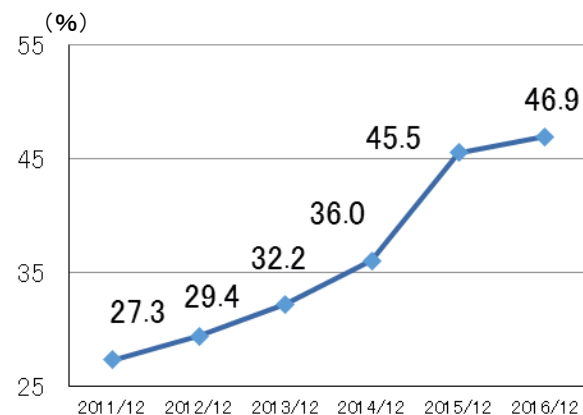
総資産利益率 (ROA)



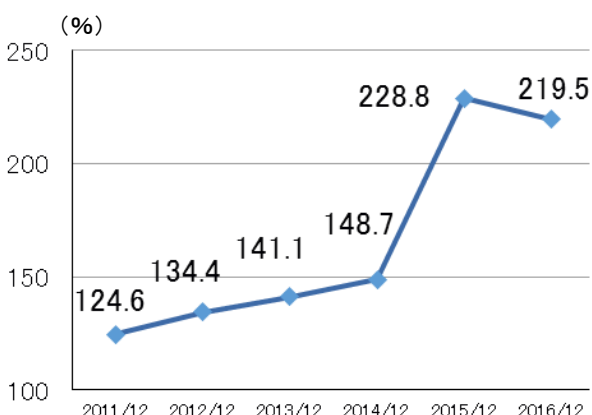
自己資本利益率 (ROE)



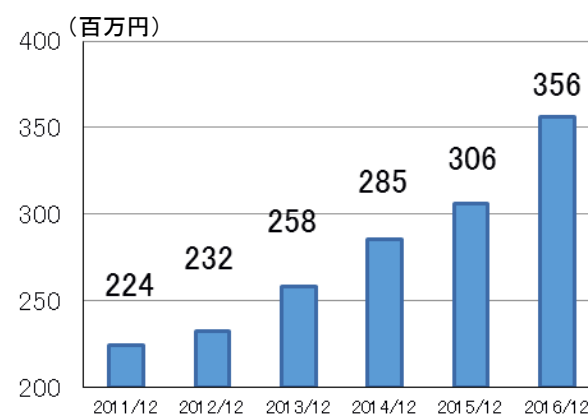
自己資本比率



流動比率



研究開発費推移



Ⅱ 今後の成長戦略

技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

新規診断技術の創出

マーケット展開

技術革新[ウイルス・細菌に特化]

病院・開業医分野

OTC・その他分野

スクリーニング検査技術

① クイックチェイサーシリーズのシェア拡大

- ・対象疾患の拡大
- ・既存製品の改善・改良

◎ 次世代多項目マルチ検査システムの開発

- ・正確性・迅速性への更なるシーズ開発



- ・ウイルス分野から細菌分野への市場創出

② スイッチOTCマーケットでの業績拡大

- ・スイッチOTC製品の先発販売
- ・大手OTC医薬品企業との販売提携

確定診断技術

③ 遺伝子POCT検査による確定診断機器・試薬システムの市場展開

- ・呼吸器感染症項目
- ・消化器感染症項目
- ・薬剤耐性菌項目



- ・感染初期の確定診断需要を拡大

◎ 環境・食品検査分野への応用開発

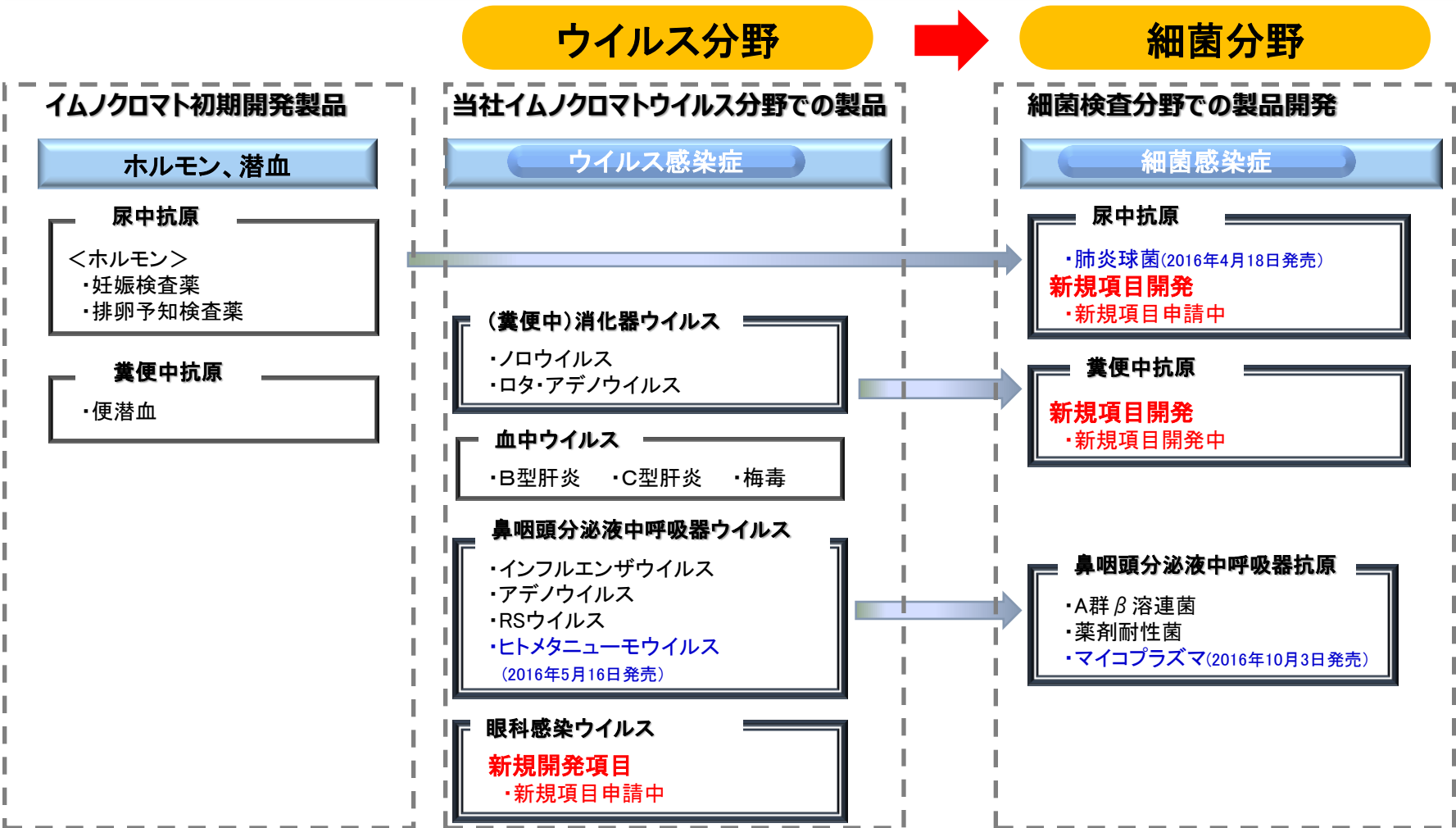
- ・遺伝子POCT技術を応用した環境・食品微生物検査への展開

安定的収益と企業成長

自社開発・製造・販売一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略



➤ ①.クイックチェイサーシリーズの拡大



➤ ②.スイッチOTCマーケットでの業績拡大

政府主導のスイッチOTC化

- 平成25年日本再興戦略方針において、薬局を拠点に地域に密着したセルフメディケーションの推進を提唱
- 政府主導でスイッチOTC化推進
- **OTC検査薬の許認可スキームが確立、排卵日予測検査薬承認審査開始**

関連プレイヤーの動向

- 大手医薬品メーカーの検査薬市場参入

当社のポジション

- OTC検査薬市場の主力製品である妊娠検査薬販売国内1位（2015年富士経済調べ）
- **大手OTC医薬品メーカー武田薬品工業と販売提携**
- 今後スイッチOTC化が見込まれる項目群を医療用診断薬として既に製造販売

当社の取組

- **スイッチOTC製品の先発販売**
排卵日予測検査薬承認取得（2016.11.15）
武田薬品工業より「ハイテスターH」発売（2016.12.27）
自社ブランド品はドラッグストアのPB製品として市場展開

③-1. 遺伝子検査マーケットと将来展望

感染症遺伝子検査の現状

- 検査施設** 検査センター, 大学病院, 機関病院
- 装置** 大型装置, 遺伝子抽出, 増幅, 検出セパレート型の装置
- 検査項目** 感染症多検体処理 (HCV, HBV, HIV, 結核菌, クラミジア, 淋菌, パピローマ)
- 市場ニーズ** 遺伝子診断のPOCT化
 - ・装置価格の低減
 - ・簡易な測定操作技術
 - ・結果判定の迅速化
 - ・感染初期に検出

技術革新

- ・死亡率の低下
- ・重篤化の低減
- ・院内, 家族内感染など水平感染の防止

遺伝子検査の拡大

- 検査施設** 一般病院検査室, 開業医
- 装置** 一体型機, 低コスト化
- 検査項目** 感染症 (呼吸器, 消化器感染症全般) 薬剤耐性菌

マーケット拡大

潜在遺伝子検査市場の創出(保険収載)

呼吸器・消化器感染症診断市場を主に新たな遺伝子検査項目の保険収載とマーケット拡大

➤ ③-2. 遺伝子POCT検査による 確定診断機器・試薬システムの製品化

独自開発の新規診断技術

独自特許技術とイムノクロマトPOCT試薬にて培ったオールインワン(遺伝子抽出・増幅・検出)試薬による遺伝子POCT検査を実現

- ・メンブレン技術による簡易遺伝子抽出技術
- ・高速かつ正確な遺伝子増幅技術
- ・迅速かつ高精度な検出技術

遺伝子検査の全てを
1つの試薬と1台の小型装置に集約
呼吸器感染症項目の申請を終了

- ・1ステップ
- ・短時間
- ・安価



遺伝子POCT検査の実用化

わずかな量の原因菌やウイルスを早期に確定することが出来ることから、初期感染の見逃しを防ぎ、早期治療・投薬を行うことにより死亡率や重篤化が低下

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

e-mail：ir@mizuho-m.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。